

脊柱変形は古くから知られた疾患です。伝承されたインド神話には背骨の曲がった女性の逸話があり、古代エジプトのミイラには脊椎カリエスが確認されています。また脊椎の父と呼ばれる Hippocrates が記した脊柱変形には、病態が明らかな外傷が記されているようです。近代になってからは感染症や外傷以外の脊柱変形に関心が及ぶようになり、特に小児脊椎疾患として研究、そして診断・治療が発展しました。成人脊柱変形にいたっては骨粗鬆症や変形性関節症と同様に加齢変化とみなされてきたわけで、疾患対象となったのは最近です。

超高齢社会の日本において、運動器疾患を扱う整形外科が小児側弯症と並んで成人脊柱変形に携わるようになったのは至極当然といえましょう。特に2000年以降に成人を含めた脊柱変形は自然経過、病態、診断、そして治療の各分野で発展しました。扱うレベルも胸腰椎から頸椎や骨盤まで広がり、手術自体も内視鏡や腰椎椎体間固定術 (LIF) などの小さな侵襲から前後合併のオープン手術まで、手技も多様となっています。「脊柱変形 up-to-date」として皆様の活動をご報告いただければ幸いです。

募集細目 (例)

- | | | |
|--|---|--|
| <p>I. 乳幼児側弯症 (early onset scoliosis : EOS)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然経過や評価 (特に呼吸機能) 2. 保存療法 <ol style="list-style-type: none"> 1) ギブス治療 2) 装具治療 3. 手術療法の適応と成績 <ol style="list-style-type: none"> 1) Growing rod など, growth-sparing surgery の適応と成績 2) 固定手術の成績 <p>II. 学童期側弯症 (late onset scoliosis) など (腰椎分離症を含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病態・自然経過 2. 診断 <ol style="list-style-type: none"> 1) X線や EOS, 動態評価 2) 体表評価 (スマートフォン, 専用機器) 3) 運動器検診の現状と今後の展開 4) 矢状面アライメント 5) 患者アウトカム 3. 保存療法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動療法の現状と課題 2) 装具療法の工夫 4. 手術療法 <ol style="list-style-type: none"> 1) カーブタイプによる手術成績 2) 肩・ウエストバランスへの対応 3) 矯正手技の工夫 4) 手術支援 (CT, ロボット) 5) 神経モニタリング 6) 出血対策 | <ol style="list-style-type: none"> 7) 長期成績 5. 神経筋性側弯症 (診断・治療など) 6. 症候性側弯症 (診断・治療など) 7. 腰椎分離症 (診断・治療など) <p>III. 成人脊柱変形 (胸腰椎)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然経過 <ol style="list-style-type: none"> 1) 進行リスク 2) 腰痛と変形の関連 2. 病態・評価・診断 <ol style="list-style-type: none"> 1) 組織・遺伝子研究 2) 診断 <ol style="list-style-type: none"> ① 脊柱アライメント ② 骨密度 ③ 筋評価 ④ 身体機能 [全身機能や胃食道逆流症 (GERD), 頸椎] ⑤ 患者アウトカム 3. 保存療法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動療法の工夫と成績 2) リハビリテーションやスタッフを含めた外来体制の工夫 4. 手術療法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 除圧手術 2) 除圧手術と限局した固定の併用 3) 変形全体に対する固定手術 <ol style="list-style-type: none"> ① 後方単独 ② 前方単独 | <ol style="list-style-type: none"> ③ 前後方合併 <ol style="list-style-type: none"> i. LIF を加えた矯正手術の適応と成績 ii. 経皮的椎弓根スクリューを加えた矯正手術の適応と成績 iii. 骨切りを加えた矯正手術の適応と成績 4) 矯正手技の工夫 5) 手術支援 (CT, ロボット) 6) 神経モニタリング 7) 出血対策 8) 感染対策 9) 骨粗鬆症対策 10) 手術室・病棟スタッフを含めた手術体制の工夫 11) 手術成績 12) 短期手術合併症 [instrument failure, proximal junctional kyphosis (PJK), distal junctional kyphosis (DJK)] 13) 長期成績 (生活の質や痛み, 口コミとの関係) <p>IV. 成人の頸椎変形 (頸椎後弯・首下がり症候群)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然経過や危険因子 2. 病態・診断法・アウトカム 3. 保存療法とその成績 4. 手術療法の適応と手技, 成績と合併症 |
|--|---|--|

※上記募集細目以外でもぜひご応募ください

『整形外科』編集委員会

ご応募くださる方は、タイトルおよび要旨 (1,000字以内) を、2024年8月末日までに下記『整形外科』編集室・『別冊整形外科』係宛にお送りください (E-mailでも受け付けます)。2024年9月末日までに編集委員会で採否を決めさせていただきます。その後ご連絡いたします。なお、ご執筆をお願いする場合の原稿締め切りは採用決定から2ヵ月後 (2024年11月末日)、発行は2025年4月予定となります。

送付先: ☎ 113-8410 東京都文京区本郷三丁目42番6号

株式会社南江堂 『整形外科』編集室・『別冊整形外科』係

(TEL 03-3811-7619 / FAX 03-3811-8660 / E-mail: pub-jo@nankodo.co.jp)